

子牛を乾かそう ～ 初乳給与のその前に ～

元気な子牛の分娩と、生まれてから数時間の間に行うべき適切な処置は、子牛の将来の健康と成長のための第一歩です。母牛の胎内で育ってきた胎児は、分娩により外の世界にさらされます。生まれたばかりの子牛は、病気や感染に対して何の防御力も持っていません。さらに、夏は暑熱、冬は寒冷のストレスに対処することが大切です。

▼ 子牛の体が濡れていることで起こること

- 水分が蒸散するときに体温が奪われる
- 体温が下がるとエネルギーを急激に消費する
- 免疫力の低下
- ほ乳意欲の低下
- 免疫抗体（免疫グロブリン）の吸収能力も低下

出生時の子牛の体温は39.4～40℃前後。体温は出生後30分以内に下がり、1時間ほどたつと38.6℃近くで安定します。



濡れていると体温が奪われる

◎ 体を乾かすことによる効果

- 体温の低下を防ぐ
- エネルギーのロスを防ぐ
- 免疫力やほ乳意欲の低下を防ぐ
- 初乳給与時の免疫抗体の吸収能力低下を防ぐ

～ 子牛を乾かす方法を紹介します ～

(1) リッキング(母牛になめさせる)

- 羊水や羊膜を取り除き被毛を乾かす。
- マッサージ効果もある。
→ 子牛の胃の中に残った羊水の吐き出しがスムーズになる。
また、子牛の代謝が上がり、初乳中の免疫グロブリンの吸収が上がるといわれている。
- 母牛には母性本能が働き、子宮の収縮や泌乳の促進につながる。



母牛になめさせる

(2) 人が拭く

- ・ 母牛がリッキングできない場合は、ワラやタオルを使って人が拭く。
- ・ 少し強めに擦ることで前述のマッサージ効果が得られる。



母牛に代わって人が拭く

(3) ヘアドライヤーを利用する

- ・ 電源さえあれば、どこでも作業ができる。
- ・ 子牛をカーフハッチやペンに移動させてから乾かせる。
- ・ 子牛乾燥用のドライヤーもある。



子牛乾燥用のドライヤー

(4) 子牛加温器(カーフウォーマー)を利用する

- ・ 最近では、導入率の高い資材のひとつ。
- ・ 開閉式ドーム内の下部から温風をあてることで、子牛の乾燥と保温ができる。
- ・ 子牛の被毛が乾くまでには3～6時間かかる。
- ・ 長時間入れすぎると、脱水症状を起こす可能性があるため、定期的に中の子牛の状態を確認する。



カーフウォーマーも上手に利用

～カーフウォーマーの導入効果について～

普及センターでは、平成29年度に十勝管内の35農場からカーフウォーマーの導入効果聞き取り調査しました。

調査結果(右図)からは、5項目のうち4項目(初乳を飲む量、増体、肺炎の発生、下痢の発生)で改善したとの声が聞かれました。

特に、効果が高く感じられたのは、**増体量の増加**と**下痢の発症率の低下**です。

これは、速やかに子牛を乾かすことで、体温の低下による**寒さストレス**が緩和されているからといえます。

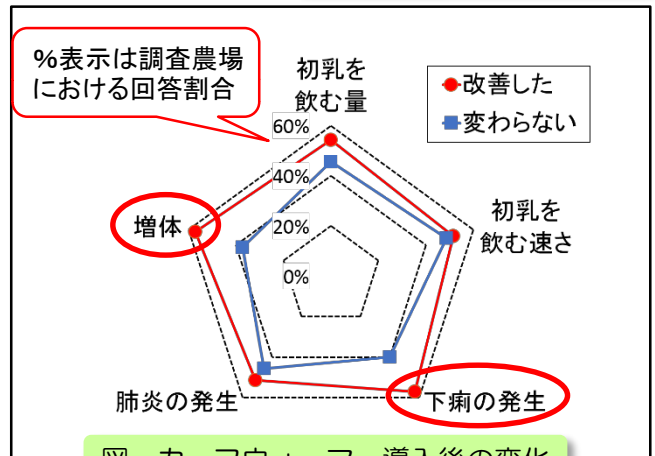


図 カーフウォーマー導入後の変化

その後の対応として・・・

寒冷時には、子牛が乾いた後も冷やさない対応が必要となります。遠赤外線ヒーターやカーフジャケット、ネックウォーマー等を利用しましょう。

また、**へその緒の消毒**や**初乳給与**なども速やかに、かつ確実にいきましょう。

あなたの農場の将来を担う後継牛です。子牛は**大事に健康に**育てましょう！